

第3回委員会に向けて

策定委員会委員長 川島 治

I. 策定委員会の役割

①政策目標を明確にする

『2040年を視野に、消滅可能性都市のトップランナーとしての危機感を共有し、介護保険の理念である自助を義務とし、自立支援・重症化防止による介護予防充実により（結果として）給付の抑制を達成し、介護人材確保に努め持続可能な町を目指す。』

②基本指針 第8期において記載を充実する事項

1. 介護離職0実現
2. 地域共生社会に向けた取り組み（裏面参照）
3. 保険事業・介護予防の一体的実施
4. 有料・サ高住設置状況・整備計画
5. チームオレンジ・通いの場 教育等他分野との連携
6. 介護人材確保・ボランティアポイント・文書負担軽減
7. 災害感染の備え

③達成目標としての事業量を検討・・・現状では困難

II. 行田市の弱み

1. PDCAサイクルの活用 → 検証委員会へ（今期はしっかり！）
2. 将来推計がない → 緊急CMアンケート 次期は更に充実を
3. 介護人材の確保の仕組みがない → 就活フェア・入門研修からマッチングまで一体化
4. 通いの場がない → 専門職の派遣・ごちゃまぜ（子育て・障がい）

III. 日医総研 日医総研 地域の医療提供体制の現状

《利根医療圏》行田・加須・羽生・久喜・蓮田・幸手・白岡・宮代・杉戸

- ・介護保険施設の定員（偏差値 61）
- ・介護職員

┌	介護施設等（偏差値 54）	：	老健 46、 <u>特養 70</u> 、グループホーム 45、サ高住 46
	在宅（偏差値 39）		
- ・介護の2025年の需要予測：2025年の介護充足度指数は-15%
高齢者施設・住宅の増設、在宅のインフラ整備が必要である。

《北部医療圏》熊谷・本庄・深谷・美里・神川・上里・寄居

- ・介護保険施設の定員（偏差値 60）
- ・介護職員

┌	介護施設等（偏差値 61）	：	老健 52、特養 64、グループホーム 50、サ高住 66
	在宅（偏差値 43）		
- ・介護の2025年の需要予測：2025年の介護充足度指数は-3%
現在の高齢者施設・住宅数でほぼ対応可能である。

(庁内の規範的統合を促しつつ)
 個人の意思決定に可能な限り寄り添って、地域で共に生きる社会の実現に向けて

